

4  
南北の王  
聖徒伝 147

# 「倒錯の道から 脱却しよう」

列王記 II 16章 歴代誌 II 28章 アハズ王の生涯

## アウトライン

### 0. イントロダクション

I. アハズ王の罪と呪い 王Ⅱ16:1～6

II. アラムと北王国の侵略 歴Ⅱ28:5～19

III. 倒錯したアハズの末路 王Ⅱ16:7～19

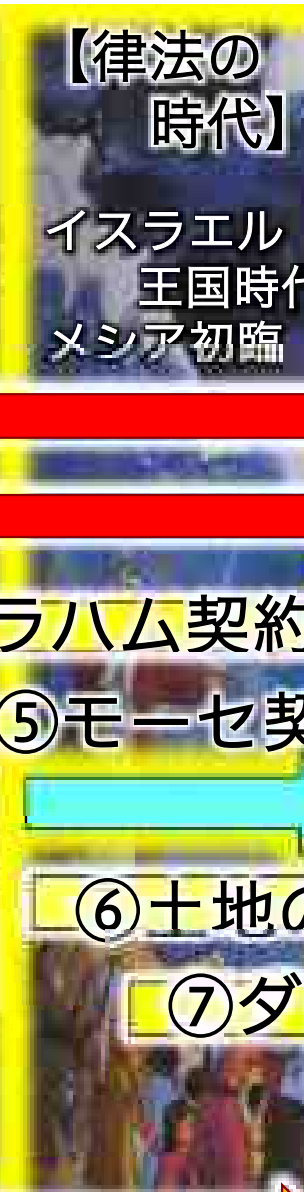
### IV. まとめと適用

譲ってはならない私たちの命とは？

**邪悪な王アハズの生涯から何を学ぶ？**



現在のダマスコ



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪  
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム  
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

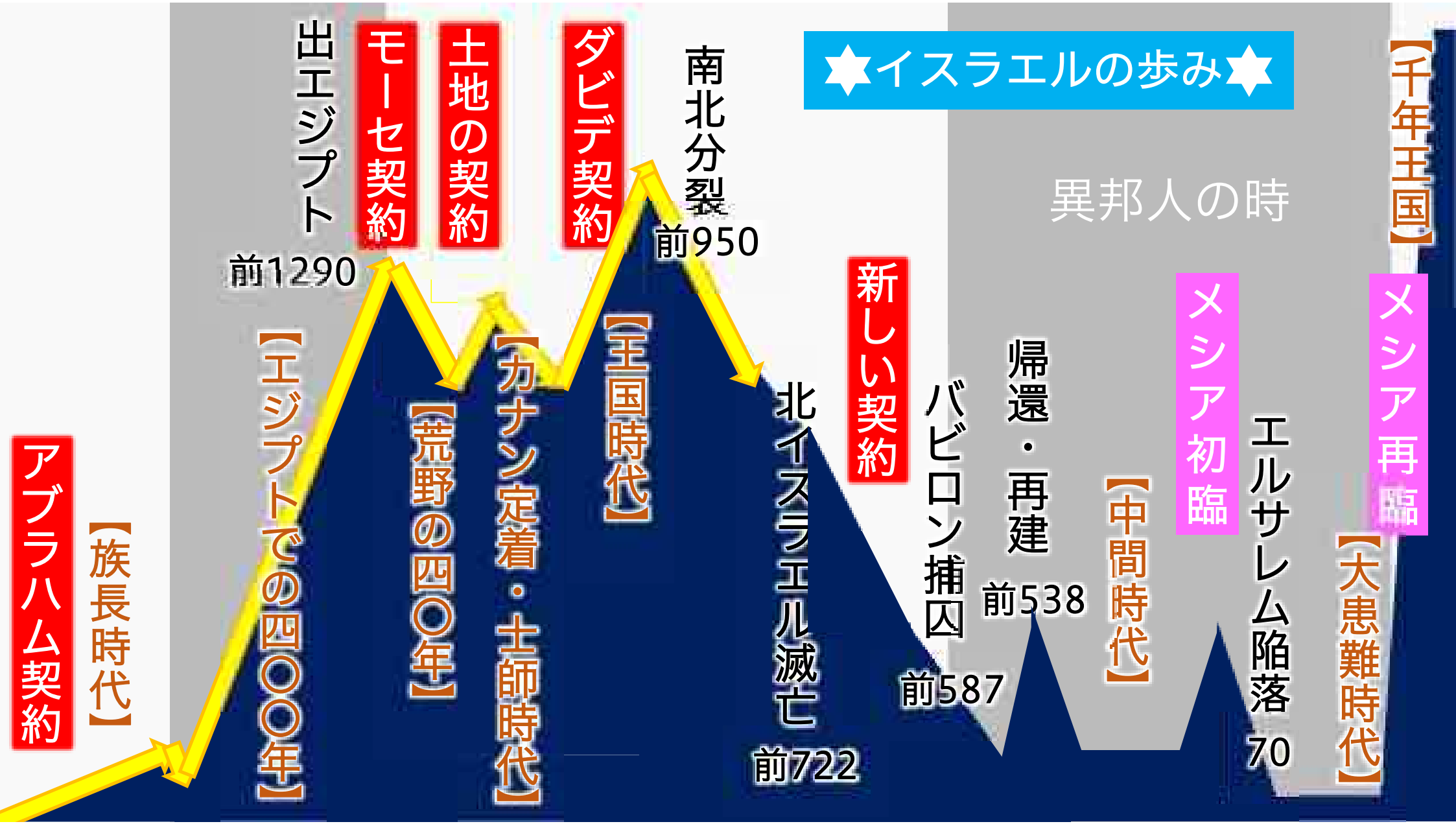
どの時代も  
神の約束が礎にある

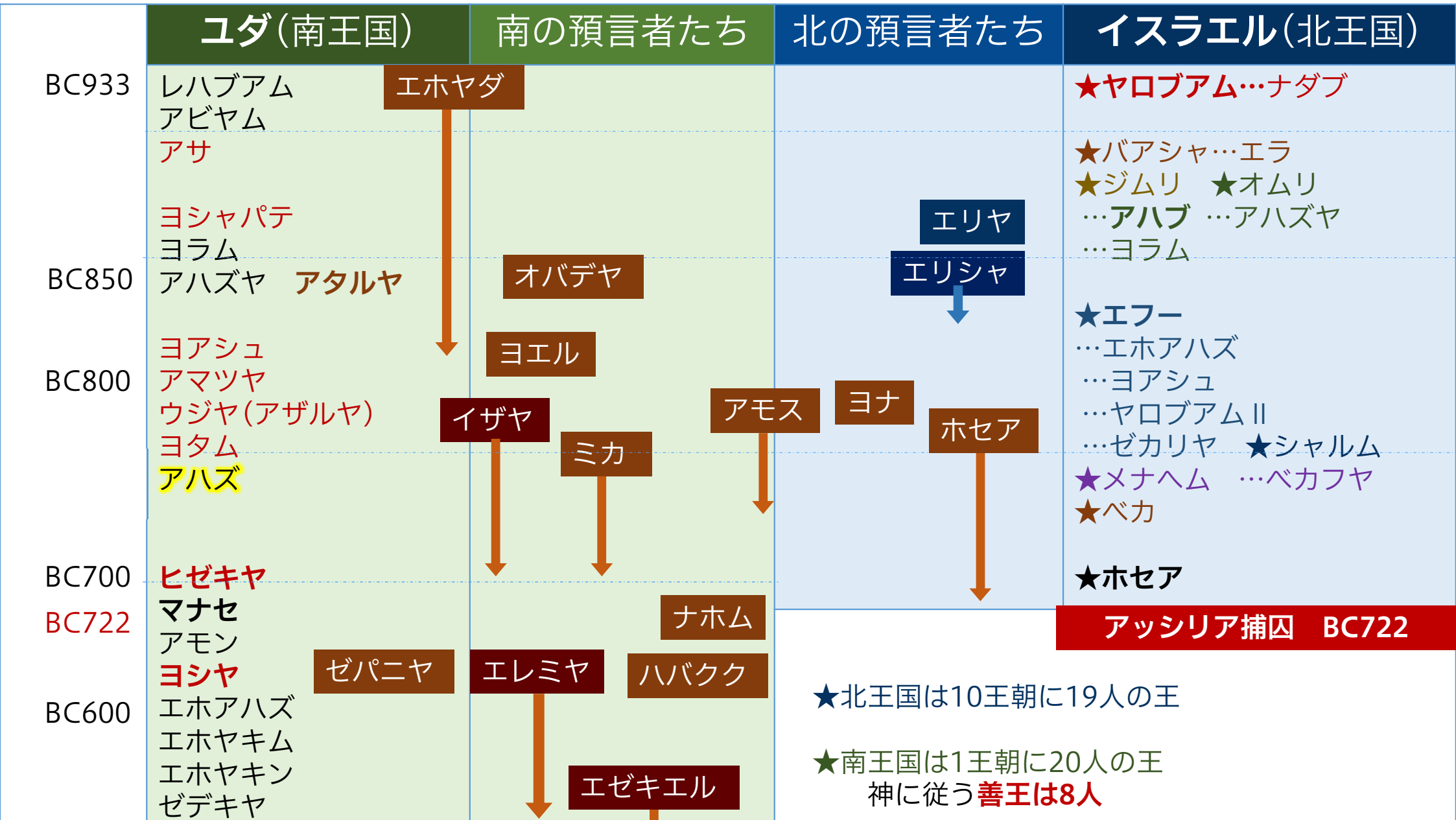
過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★





★北王国は10王朝に19人の王

★南王国は1王朝に20人の王  
神に従う善王は8人

北王国  
イスラエル

南王国  
ユダ

ホセア

アモス

ベカ 20年

ホセア 9年

混沌の時代

アッシリア捕囚①

アッシリア捕囚②

滅亡の時代

ヤロブアムⅡ 41年

ゼカリヤ 6ヶ月

シャルル 1ヶ月

メナヘム 10年

ベカフヤ 2年

南北時代の最盛期

ヨナ

邪悪な王

29年  
アマツヤ ♡

ウジヤ ♡ 52年

ヨタム ♡ 16年

アハズ ☠️ 16年

ヒゼキヤ ♡ 29年

イザヤ



## Ⅰ. アハズ王の罪と呪い

列王記16章1～5節

オリーブ山の頂のオリーブ

## 王 アハズ王の即位 列王記Ⅱ 16:1～2

レマルヤの子ペカの第十七年に、ユダの王ヨタムの子アハズ\*が王となった。アハズは二十歳で王となり、エルサレムで十六年間、王であった。

\*正式には、「エホアハズ」= “主が握られる”  
「アハズ」= “彼が握る”

- 最初の4年は、善王ヨタムとの共同統治。
  - ➔後、アハズは主の道を激しく逸れていく。





## 王 偶像の儀式 列王記Ⅱ16:3～4

彼はその父祖ダビデとは違って、彼の神、  
【主】の目にかなうことを行わず、イスラ  
エルの王たちの道に歩み、【主】がイスラエ  
ルの子らの前から追い払われた異邦の民の、  
忌み嫌うべき慣わしをまねて、自分の子ども  
に火の中を通らせる\*ことまでした。

彼は高き所、丘の上、青々と茂るあらゆる  
木の下でいけにえを献げ、犠牲を供えた。

\*カナンのモレク神の儀式。熱した像の腕の  
間を通らせた。死に至ることもあった。



## 歴 ベン・ヒノムの谷 歴代誌 II 28:3

彼は、**ベン・ヒノムの谷**で犠牲を供え、  
【主】がイスラエルの子らの前から追い払われた異邦の民の、忌み嫌うべき慣わしをまねて、自分の子どもたちに火の中を通らせた。

- ユダを滅びに招いた偶像の儀式が行われたことから、**ゲヘナ(地獄)**を意味する語に。
- 自殺したユダの遺体が投げ捨てられたのも、このベン・ヒノムの谷。





## 王 アラムの侵略 列王記Ⅱ 16:5～6

そのころ、アラムの王レツィンと、イスラエルの王レマルヤの子ペカが、戦いのためにエルサレムに上って来て、アハズを包囲したが、攻め切れなかった。

このとき、アラムの王レツィンはエイラトをアラムに復帰させ、ユダの人々をエイラトから追い払った。ところが、エドム人がエイラトに来て、そこに住みついた。今日もそのままである。

- 最盛期のウジヤ王時代に手に入れたエイラト。  
アラムの侵攻はユダの最南部まで及んだ。





## II. アラムと北王国の侵略

歴代誌 II 28章5～19節

エフライムの山地 オリーブの木々

## 歴 アラムと北王国の侵略 歴代誌II 28:5~6

彼の神、【主】が彼をアラムの王の手に渡されたので、彼らは彼を討ち、彼のところから多くの者を捕虜にしてダマスコへ連れ去った。

また、彼はイスラエルの王の手にも渡されたので、イスラエルの王は彼を討って大損害を与えた。レマルヤの子ペカは、ユダで一日のうちに十二万人を殺した。みな勇士たちであった\*。彼らがその父祖の神、【主】を捨てたからである。

\*主を捨てた勇士に力はない。

■ アラム、北王国の侵略は先代ヨタムの中から。

積み上がっている  
ユダの罪!!



## 歴 北の虜囚とされた南の民 歴代誌Ⅱ 28:7~8

エフライムの勇士ジクリ\*は、王の子マアセヤ、王の家の長アズリカム、王の補佐官エルカナを殺した。

イスラエルの人々は、自分の同胞の中から、女たち、男女の子どもたち二十万人を捕虜にし\*、また、彼らから多くの物を略奪して、分捕り物をサマリアに持って行った。

\*“記憶すべき” …覚えられたのは彼の残忍さ。

\*12万人が討たれ、20万人が捕虜。惨憺たる状況。

■ 子も忠臣も失った、アハズ王の悲惨。

北の同胞が、裁きの器に!! 神の民が裁きあう悲惨



## 歴 問われる北の部族の罪 歴代誌Ⅱ 28:9

そこには【主】の預言者で、その名をオデデ\*という者がいた。この人はサマリアに入って来た軍隊の前に進み出て言った。「見よ。あなたがたの父祖の神、【主】がユダに対して憤られたため、主はあなたがたの手に彼らを渡された。ところが、あなたがたは天に届くほどの激しい怒りをもって\*彼らを殺した。」

\*“もとへ戻す人”

\*北の部族を裁きの器として用いられたのは主。

➔しかし、主への恐れもなく暴虐を尽くした。





## 歴 イスラエルの罪過 歴代誌Ⅱ 28:10～11

「今、あなたがたはユダとエルサレムの人々を従わせて、自分たちの男女の奴隷にしようとしている。ただ、あなたがた自身も、あなたがたの神、【主】に対して罪過があるのではないか。

今、私に聞きなさい。あなたがたの同胞の中から捕らえた捕虜を帰しなさい。【主】の燃える怒りがあなたがたに臨んでいる\*からだ。」

\*主への恐れもなく同胞に暴虐を働き、律法に反して同胞を虜囚とした北の部族の罪は大きい。

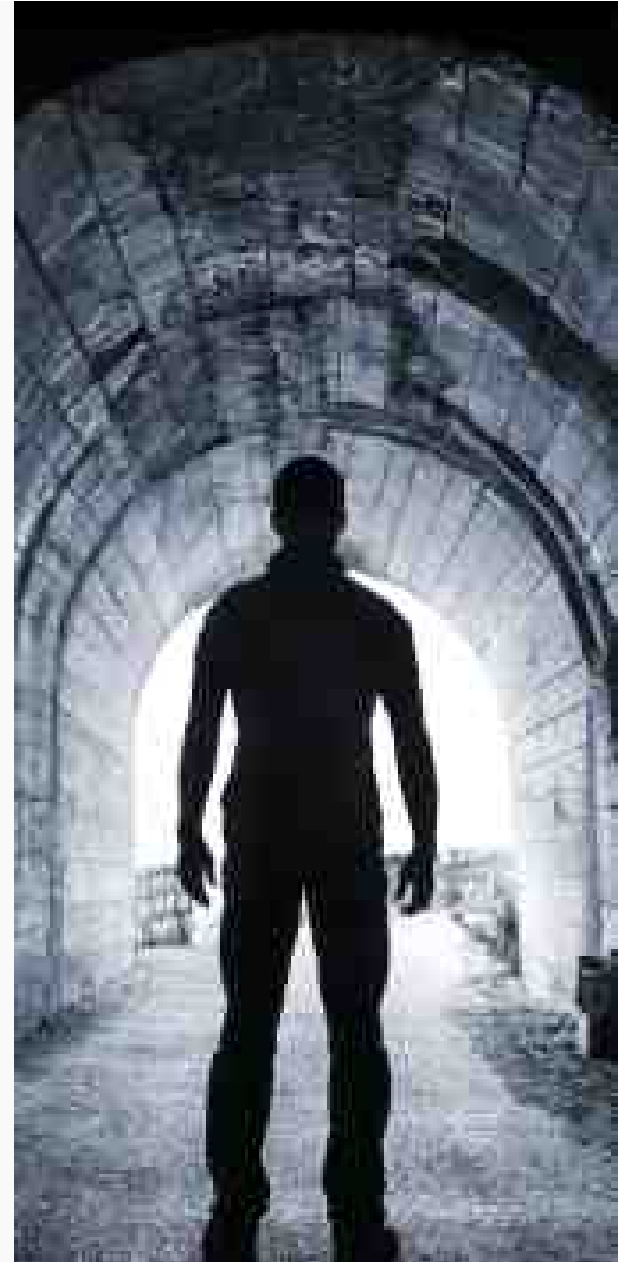


悔い改めなくば  
この時点で  
神の裁きは  
下っただろう

## 歴 長老たちの促し 歴代誌Ⅱ 28:12~13

そのとき、エフライムの人々のかしらたちの中から、ヨハナンの子アザルヤ、メシレモテの子ベレクヤ、シャルムの子ヒゼキヤ、ハデライの子アマサが、戦いから帰って来た者たちに対して立ち上がり、彼らに言った。「捕虜をここに連れて来てはならない。私たちを、【主】に対して罪過ある者とするようなことをあなたがたは考えて、私たちの罪と罪過を増し加えようとしている。私たちの罪過はすでに大きく、燃える怒りがイスラエルの上に臨んでいるからだ。」

➡北王国に、それでも残された信仰者たちが。



## 歴 北の部族の悔い改め 歴代誌Ⅱ 28:14~15

そこで、武装した者たちは、首長たちと全会衆の前で、捕虜と略奪した物を手放した。

指名された人々は立ち上がり、捕虜を引き受け、彼らの中で裸の者にはみな、分捕り物の中から衣服を取って着せた。彼らは捕虜に衣服を着せ、履き物を与え、食べさせ、飲ませ、油を塗り、また、足の弱い者はみなろばに乗せ、なつめ椰子の町エリコ\*にいる兄弟たちのところへ連れて行った。こうして、彼らはサマリアに帰った。

\*オアシスの療養地になっていた。

悔い改めて直近の裁きは  
免れた北王国



## 歴 アハズ王の過ち 歴代誌Ⅱ 28:16～17

そのとき、アハズ王はアッシリアの王たち\*  
に人を遣わして、助けを求めた。

エドム人も再び攻めて来て、ユダを打ち、捕虜を捕らえて行った。

\*複数代の王に渡って長期間ということか。

■よりによって、イスラエルを滅ぼすと預言されたアッシリアに助けを求めたユダ。

➔北同様、神の怒りを招く行為。



## 歴 ペリシテ人の侵略 歴代誌Ⅱ 28:18

ペリシテ人は、ユダのシェフェラおよびネゲブにある町々を襲い、ベテ・シエメシュ、アヤロン、ゲデロテ、およびソコとそれに属する村々、ティムナとそれに属する村々、ギムゾとそれに属する村々を取って、そこに住んだ。

- ウジヤの時代には、ペリシテの町々も支配していたが、ペリシテも完全に復権した。
- ➔先々代に最盛期を誇っていた南王国の領土は、アハズ王の時代に一気に削り取られていった。



## 歴 アハズの罪の結果 歴代誌Ⅱ 28:19～20

これは、【主】がイスラエルの王アハズのゆえにユダを低くされたためである。彼がユダにおいて好き勝手にふるまい、甚だしく【主】の信頼を裏切った\*からである。

アッシリアの王ティグラト・ピレセルは彼のところに来たが、彼の力になるどころか、むしろ彼を苦しめた。

\*アハズ王は、これまでのユダの王の誰よりも重い罪を犯し、厳しい裁きを自ら招いた。



ネゲブの荒野の落日



### Ⅲ. 倒錯したアハズの末路

列王記Ⅱ 16章7～19節

オリーブ山から見たダビデの町

## 王 アハズの過ち 列王記Ⅱ16:7

アハズは使者たちをアッシリアの王ティグラト・ピレセルに遣わして言った。「私はあなたのしもべであり、あなたの子です\*。どうか上って来て、私を攻めているアラムの王とイスラエルの王の手から救ってください。」

\*ユダの王は本来、主の僕、主の子。

■偶像礼拝に染まりきったアハズの倒錯は、さらに混迷の度合いを深めていく。





## 王 アッシリアの侵攻 列王記Ⅱ16:8～9

アハズが【主】の宮と王宮の宝物倉にある銀と金を取り出して、それを贈り物としてアッシリアの王に送ったので、アッシリアの王は彼の願いを聞き入れた。アッシリアの王はダマスコに攻め上り、これを取り、その住民をキルへ捕らえ移した\*。彼はレツィンを殺した。

\*アッシリアによる支配民の強制移住政策。

➡イスラエルも、その被害を受けることに。

■アハズの嘆願が、アッシリアに南侵の口実を与えることに!!



## 王 アラムの偶像の祭壇 列王記Ⅱ 16:10～11

アハズ王は、アッシリアの王ティグラト・ピレセルに会うためダマスコに行ったとき、**ダマスコにある祭壇を見た\***。アハズ王は、祭壇の図面とその模型を、詳細な作り方と一緒に祭司ウリヤに送った。

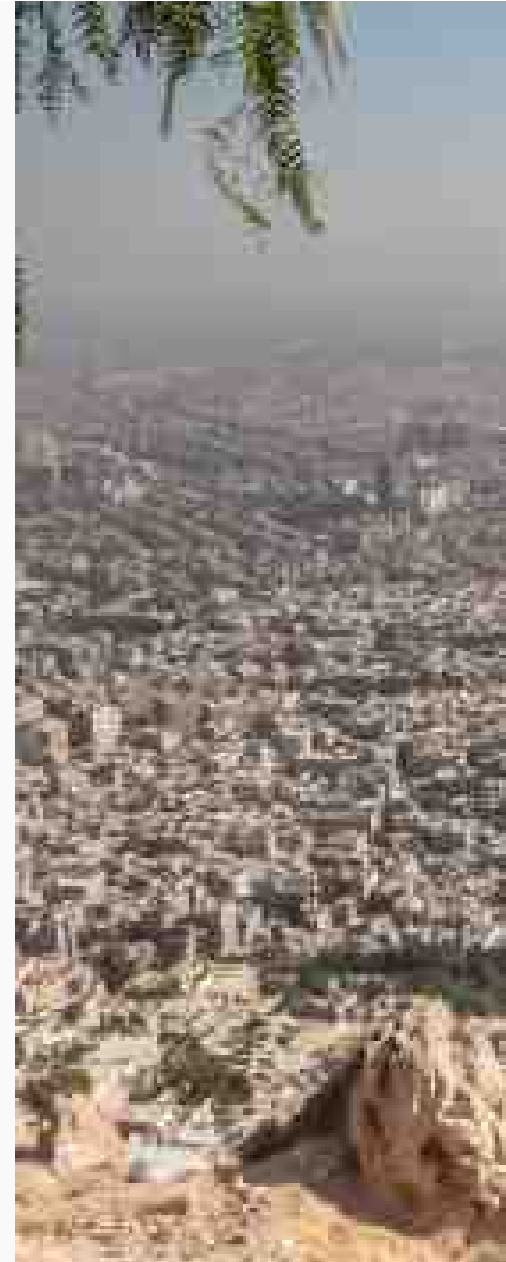
祭司ウリヤは、アハズ王がダマスコから送ったものとそっくりの祭壇を築いた。祭司ウリヤは、アハズ王がダマスコから帰って来るまでに、そのようにした。

■長年、イスラエル、ユダを苦しめてきたアラム。

**アラムの力を偶像に見て\***、惹かれたのか？

➔**姦淫を重ねる者のように、**

**新しい神を求め続けるのが偶像礼拝**



## 歴 偶像礼拝の動機 歴代誌Ⅱ 28:22～23

アッシリアの王が彼を苦しめたとき\*、このアハズ王は、さらに【主】の信頼を裏切った。

彼は、自分を打ったダマスコの神々にいけにえを献げて言った。「アラムの王たちの神々は彼らを助けている。この神々に、私もいけにえを献げよう。そうすれば私を助けてくれるだろう。」

\*助けを求めたアッシリアに抑圧された。

■アッシリアの抑圧に対抗するために、  
アハズは、長年の敵アラムの偶像の力を求めた。



## 歴 捨てられた宮の用具 歴代誌Ⅱ 28:23～24

これらの神々は、彼と全イスラエルをつまづかせるものとなった。

アハズは、神の宮の用具を集めた。彼は神の宮の用具を取り外し、【主】の宮の戸を閉じ\*、エルサレムの街角のいたるところに祭壇を造った。

\*祭司が主への礼拝を行えず、神殿に出入りもできないように、徹底して主を排除し、偶像の祭壇をエルサレム中に築いた。

→ここまでの邪悪な王はユダではアハズだけ。



## 王 偶像との交わり 列王記 II 16:12~14

王はダマスコから帰って来た。その祭壇を見て、王は祭壇に近づき、その上に上った。

彼は全焼のささげ物と、穀物のささげ物を焼いて煙にし、注ぎのささげ物を注ぎ、自分のための交わりのいけにえの血\*をこの祭壇に振りかけた。

【主】の前にあった青銅の祭壇は、神殿の前から、すなわち、この祭壇と【主】の神殿の間から動かし、この祭壇の北側に置いた。

\*偶像への犠牲は、悪霊との交わり。悪の極み。

## 王 偶像の祭壇と国家宗教 列王記 II 16:15

それから、アハズ王は祭司ウリヤに次のように命じた。「朝の全焼のささげ物と夕方の穀物のささげ物、また、王の全焼のささげ物と穀物のささげ物、この国の民全体の全焼のささげ物と穀物のささげ物、ならびにこれらに添える注ぎのささげ物を、この大いなる祭壇の上で焼いて煙にせよ。また全焼のささげ物の血といけにえの血は、すべてこの祭壇の上に振りかけなければならない。青銅の祭壇は、私が伺いを立てるためのものとする\*。」

\*偶像と偶像の祭壇がユダの国家宗教の礎に。

→従来の祭壇は、王の占いに用いられた。



## 王 解体される洗盤 列王記 II 16:16~17

祭司ウリヤは、すべてアハズ王が命じたとおりに行った。アハズ王は、車輪付きの台の鏡板を切り離し、その台の上から洗盤\*を外し、またその下にある青銅の牛の上から「海\*」も降ろして、それを敷き石の上に置いた\*。

\*ソロモンが神殿と共に造らせた重要な祭具。

\*台の上に据えたのは、けがれた地からのきよめの意味があったのだろうか…。

■ 神殿も祭具もことごとくけがされた。





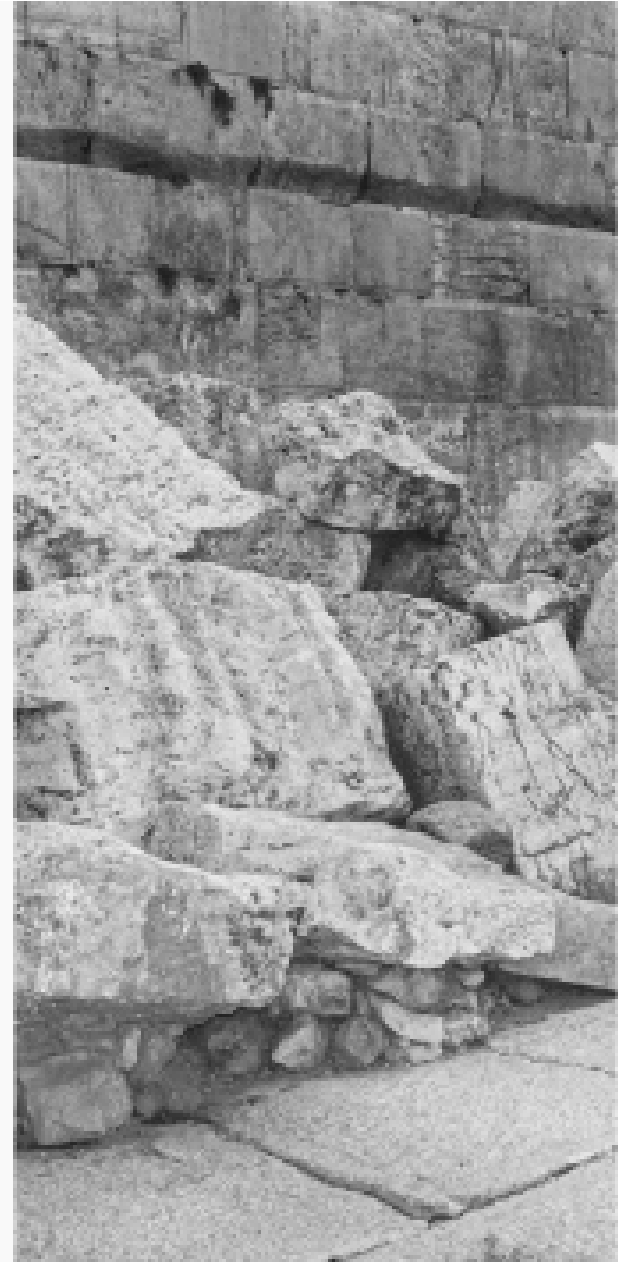
## 王 重ねられるアハズの蛮行 列王記16:18

彼は、宮の中に造られていた安息日用の覆いのある通路も、外側の王の出入り口も、アッシリアの王のために\*【主】の宮から取り除いた。

\*異教徒のアッシリア王を排除したととられる要素をことごとく取り除いたのだろう。

■神の定めた、きよめとけがれの境界を、すべて聖なる神の宮から取り除いてしまった。

→悪と罪に犯され放題の深刻な状況





## 王 アハズの死 列王記Ⅱ 16:19～20

アハズが行ったその他の事柄、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。

アハズは先祖とともに眠りにつき、先祖とともにダビデの町に葬られた。彼の子ヒゼキヤが代わって王となった。



## 歴 アハズの末路 歴代誌Ⅱ 28:25,27

またユダの町という町にはすべて、ほかの神々に犠牲を供えるための高き所を造り、彼の父祖の神、【主】の怒りを引き起こした。

アハズは先祖とともに眠りにつき、人々は彼をエルサレムの都に葬った。彼をイスラエルの王たちの墓に運び入れなかった\*のである。彼の子ヒゼキヤが代わって王となった。

\*イスラエルの王とは、主に認められなかった。

➡アハズの罪は、深い傷跡を残した。





## IV. まとめと適用

譲ってはならない私たちの命とは？

## アハズ王の生涯

■ ヨアシュ→アマツヤ→ウジヤ→ヨタムと善王が続いていた。  
父ヨタムとは4年間、共同統治を行った。

■ にも関わらず、最初から偶像礼拝にのめり込み、裁きを招いた。  
北王国からの侵略では、預言者オデデにより民の捕囚を免れた。  
→同胞から滅ぼされる、最悪の事態は主によって回避された。  
(イザヤも主の預言をアハズに告げている。イザヤ7章)

■ 周辺国を通した主の懲らしめにも関わらず悔い改めを拒み、  
アッシリアの力に頼り、アラムの偶像礼拝にのめり込んだ。

**主に背き通した、最悪の邪悪な王が、アハズ王**

## アハズの罪から考える偶像礼拝

- アハズにできなかったのは、主の前に自分の罪を悔い改めること。
- 自分の罪を認め、悔い改めて主を信じる。
  - ➔ それなしには、人には、偶像礼拝の道しかない。
- アハズは、カナンのモレク神に子どもまでささげ、依り頼んだアッシリアに苦しめられると、アラムの神に入れあげた。
  - ➔ 定まらない人の心同様、常に移ろい行くのが、偶像礼拝  
例) 様々な神々の宗教に、その時々で頼る政治的指導者
- 偶像礼拝は、己の欲望を満たす手段。真の偶像は人の心の内にある。

## 主の光を失った信仰者 祭司ウリヤの悲惨に学ぶ

- アハズの命を受け、アラムの祭壇を模倣して建てた祭司ウリヤ\*  
イザヤの預言の証人として用いられたこともあった。(イザヤ8:2)
- “主は私の光” という名とは裏腹に、ウリヤは主の光を失った。
- あの人がまさか。という状況に、信仰者もたやすく陥る。  
主を離れれば、転落するのはあっという間だ。
- 妥協を招くのは、自己保身。主の命めいよりも自分が大事にされている。  
ウリヤに言い訳はたくさんあっただろうが、主には一切通用しない。

## 偶像礼拝の本質とは、私の欲望 大切なのは、どこまでも私

■ ある同性愛者の牧師から向けられた間接的な抗議。

こちらの言い分には耳を貸さず、命が侵害されたの一点張り。

なぜ本人に直接言わない？ → クリスマスが終わったら伝える予定

■ 命が大切と言いながら、優先されているのは形ばかりの宗教行事。

→ 結局、大切なのは、自分の命。祭り上げているのは自分の欲望。

例) 離婚した芸能人。性的指向が原因？ 新しい家族の形？

→ 愛を妨げる法はない。本質的な問題は、性的欲望の充足。

■ 己の欲望を満たすことが権利であり正義。強い者が勝つだけの世界。

ドロドロした闇を覆い隠した、華やかなイメージは、偶像そのものの。

## ★ 公の宣言者として立たせられている私たち ★

■ NBUSをめぐる、福音派内の批判。公の宣言をとがめていないか？ごく少数の信仰者が、時代の趨勢に呑み込まれようという危機に、なすべきは、神の義の公の宣言。預言者が身をもって示した道。

■ 最も力を入れてなすべきは、**福音**の御業の宣言にほかならない。相手が誰で、どんな立場でも、信じるべきことは代わらない。

**「主イエス・キリストは、あなたの罪のために十字架にかけられ、死んで葬られ、死を打ち破って復活された」** この福音だけだ。

■ 私に現状を変える力はない。世界を変えるのは主イエスの**福音**だ。信頼して告げ知らせる。立ち続ける。繰り返し心に霊に刻まれる。



てん とう  
「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、<sup>そむ</sup>罪を<sup>つみ</sup>重ねてきました。  
ひび おか つみ こくはく つみ  
日々犯してしまう罪をも告白します。この罪をゆるしてください。

かみ こ  
わたしは、神のみ子イエス・キリストが、  
つみ あがな じゅうじか し

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ

②墓に葬られ、

みつかめ ふっかつ

③三日目に復活した<sup>しん</sup>こと、を信じます。

わたし うち あば よくぼう わたしじしん りんじん くる

私の内で暴れる欲望が、私自身と隣人を苦しめます。

じぶん だいいち ぐうぞうれいはい わたし まも  
自分を第一としてしまう、偶像礼拝から私を守ってください。

よげんしゃ しゅ しんらい  
預言者たちのように、ただ主よ あなたに信頼して、

あなたの使命に遣わされ、用いられる者としてください。

しゅ な いの  
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」